

さいたま市民の政治意識と投票行動

—2023 さいたま市議選追跡調査から—

Political Attitudes and Voting Behaviors of the Citizens of Saitama: From the 2023 Saitama City Council Elections Follow-up Survey

松本 正生
Masao Matsumoto

1. 2023 さいたま市議選の結果
2. 市議選追跡調査の結果
 - 2-1 政治や選挙への関心
 - 2-2 「投票した」人たち
 - 2-3 「投票しなかった」人たち
 - 2-4 投票行動の弁別要素
 - 2-5 選択の情報源
 - 2-6 選挙権年齢と被選挙権年齢
 - 2-7 政治や社会の情報源
3. 経年結果（2015・2019・2023）の推移
 - 3-1 投票行動の弁別要素

〈要旨〉

埼玉大学社会調査研究センターは、2023年5月に、さいたま市選挙管理委員会と共同で、4月に行われたさいたま市議選の追跡調査（「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」）を実施した。本小論では、有権者の政治や選挙への関心、情報源などとともに、投票行動への動機付けに注目した。

さいたま市議選に関しては、前回の2019年に、埼玉大学社会調査研究センターとさいたま市選挙管理委員会の共同で、さらに、2015年の選挙後にも、埼玉大学社会調査研究センターが独自に実施している。その結果も加え、3回の経年の推移を投票行動の弁別要素に焦点を絞ってトレースした。

比較検討した諸指標の中では、「投票所までの時間」が「投票したか、しなかったか」を弁別する有効な変数であることを確認できた。加えて、「投票所までの時間」は「投票した」人たちにとっても、「当日投票か、期日前投票か」を弁別する要素であるという知見も得られた。

The Saitama University Social Survey Research Center collaborated with the Saitama Election Administration Committee in May 2023 to conduct a follow-up survey (“Saitama Citizens’ Attitudes towards Politics and Elections”) following the Saitama City Council election held in April. This paper provides an overview of voter attitudes toward politics and elections, with a focus on the motivations behind their voting behavior.

Prior to this, the Saitama University Social Survey Research Center and the Saitama Election Administration Committee had jointly conducted a survey in 2019, and the Saitama University Social Survey Research Center had also independently conducted one after the 2015 election. Using the results of all three surveys, the trends over time were traced, focusing on the distinctive elements of voting behavior.

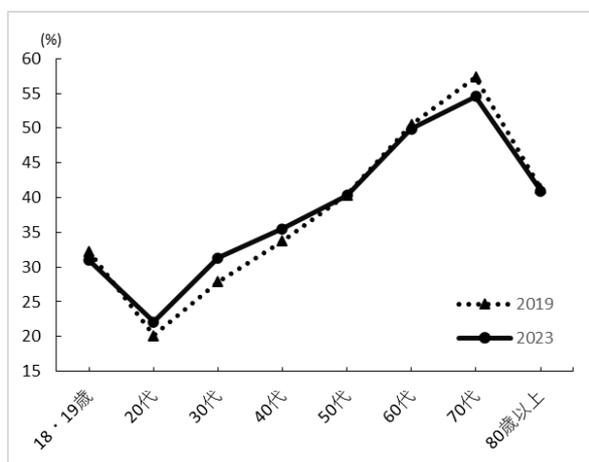
A comparison of the indicators revealed that “time to the poll location” was an effective variable for discriminating whether a voter “voted or did not vote.” Further, “time to the poll location” was also a discriminatory factor for those who “voted,” in the context of whether they voted “on the day or before the day of the poll.”

1. 2023 さいたま市議選の結果

2023年4月9日に投開票が行われた、さいたま市議会議員選挙の投票率は38.78%で、前回(2019年)の38.16%から0.62ポイント上昇した。同市議選の投票率は、47.44%(2007)→43.60%(2011)→40.39%(2015)→38.16%(2019)と下降の一途をたどっていたが、今回はわずかながら前回は上回った。

[図]は、今回(2023)と前回(2019)の投票率を年齢別にプロットしたものである。2つの折れ線はほぼ重なり合っているが、20代から40代までは前回はやや上回り、60代以上では逆に前回は下回っていることが確認できよう。

図. さいたま市議選投票率(年齢別) 2019・2023



2. 市議選追跡調査の結果

埼玉大学社会調査研究センターは、2023年5月に、さいたま市選挙管理委員会と共同で、今回の市議選の追跡調査(「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」)を実施した。

調査の対象者は、市内10区の選挙人名簿から各区の有権者数に比例する形で抽出した1,000人、調査方法は郵送法、有効回収数は611(同回収率61%)であった。調査票ならびに単純集計については後掲の資料を参照されたい。

以下、主要質問に対する回答の詳細を順次検討して行こう。

2-1. 政治や選挙への関心

まずは、有権者全体を対象に、政治や選挙への関心度をみてみよう。[表1]を参照されたい。「国や地方の政治について、どの程度関心があるか」

表1. 国や地方の政治への関心度

	非常にある	ある程度ある	あまりない	全くない
男性(275)	21%	55%	18%	5%
女性(327)	9%	57%	30%	4%
18~29(69)	9%	43%	43%	4%
30代(73)	5%	55%	33%	7%
40代(105)	10%	60%	25%	5%
50代(130)	11%	64%	22%	3%
60代(87)	21%	54%	20%	6%
70代(96)	27%	54%	15%	4%
80歳以上(51)	18%	53%	24%	2%
全体(611)	14%	56%	25%	4%

を聞いた結果を、男女・年齢別にまとめたものである。「非常にある」と「ある程度ある」を合計した「ある」派の割合は、18~29歳=52%、30代=60%、40代=70%、50代=75%、60代=75%、70代=81%と、80歳以上を除けば、年齢の上昇にしたがって増加している。一方、「全くない」と「あまりない」を合計した「ない」派の比率は、逆に、18~29歳=47%、30代=40%、40代=30%、50代=25%、60代=26%、70代=19%と、年齢の上昇とともに減少している。

比率の大小関係、すなわち絶対値に注目すると、18~29歳および30代の若年層と40代以上の中・高年層との間に、関心度における相違が存在しているように思われる。

次の[表2]は、「政治的な事柄を議論したり、話題にしたりする」頻度を聞いた結果に相当する。「よくある」と「ときどきある」を合計した「ある」の割合は全体で46%、これに対して、「ほとんどない」と「あまりない」を合計した「ない」の割合は52%で、「ある」派と「ない」派の比率が拮抗している。

年齢にブレークダウンすると、「ある」の割合は18~29歳=33%、30代=34%、40代=47%、50代=44%、60代=53%、70代=64%と、80歳以上を除けば、右肩上がりの「若低-老高」型の構造を示し

表2. 政治の話をする頻度

	よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない
男性(275)	10%	36%	31%	23%
女性(327)	9%	39%	32%	20%
18~29(69)	3%	30%	41%	26%
30代(73)	4%	30%	40%	26%
40代(105)	9%	38%	33%	20%
50代(130)	9%	35%	37%	18%
60代(87)	13%	40%	23%	24%
70代(96)	18%	46%	21%	16%
80歳以上(51)	8%	39%	24%	25%
全体(611)	9%	37%	31%	21%

ており、比率の差も最も低い18～29歳の33%と最も高い70代の64%とでは、31ポイントと大きい。

「ほとんどない」と「あまりない」を合計した「ない」の比率は、対照的に、18～29歳=67%、30代=66%、40代=53%、50代=55%、60代=47%、70代=37%と、年齢の上昇とともに減少する「若高―老低」型構造になっている。比率の絶対値も、最高の18～29歳の67%と最低の70代の37%とでは30ポイントの開きが存在している。

今回は、「4月9日に行われた今回のさいたま市議選について、どの程度関心があったか」に対する回答結果を取り上げよう。〔表3〕を参照されたい。「非常にあった」と「ある程度あった」を合計した「あった」の割合は全体で48%、「全くなかった」と「あまりなかった」を合計した「なかった」の比率は52%で、「なかった」の方が若干多い。

表3. 2023市議選への関心度

	非常にあった	ある程度あった	あまりなかった	全くなかった
男性(275)	15%	34%	35%	16%
女性(327)	12%	35%	41%	12%
18～29(69)	7%	29%	43%	20%
30代(73)	5%	34%	33%	27%
40代(105)	11%	30%	43%	14%
50代(130)	10%	38%	40%	12%
60代(87)	17%	33%	38%	10%
70代(96)	21%	43%	30%	6%
80歳以上(51)	20%	29%	39%	8%
全体(611)	13%	35%	38%	14%

年齢別にみると、「あった」の比率が5割を上回るのは60代と70代のみで、18～29歳から50代までは逆に「なかった」が5割以上を占めている。とりわけ、18～29歳と30代における「なかった」は6割を上回っている。

2-2.「投票した」人たち

さて、今回の市議選への対応（投票の有・無）を聞いた結果は、「投票した」が57%、「投票しなかった」が42%であった。調査では、「投票した」人たちと「投票しなかった」人たちに分けて、それぞれ質問をしている。ここからは、「投票した」と回答した人たちについてみていこう。

〔表4〕は、「誰と投票に行ったか」質問に対する結果をまとめたものである。全体では「家族と」が57%、「1人で」が42%となっている。「家族と」の比率は、18～29歳の最若年層が75%で最も高く、

表4. 誰と投票に行ったか

	1人で	家族と	知人等と
男性(167)	42%	57%	-
女性(177)	41%	57%	2%
18～29(32)	25%	75%	-
30代(40)	43%	58%	-
40代(58)	38%	62%	-
50代(68)	44%	56%	-
60代(52)	44%	54%	-
70代(66)	56%	44%	-
80歳以上(34)	26%	65%	9%
全体(350)	42%	57%	1%

80歳以上の最高年齢層が65%で次いでいる。また、男・女間に相違は存在しない。

〔表5〕には投票所への交通手段、すなわち、「市議選で投票所に行った際に、どのような交通手段を利用したか」の回答をまとめている。全体の結果は「徒歩」が59%と大半を占めており、「自家用車」が25%で次いでいる。「徒歩」の割合は、18～29歳が53%、60代が54%とやや低く、「自家用車」は反対に18～29歳と60代が31%とやや高めという傾向が見受けられる。

表5. 投票所への交通手段

	徒歩	自転車 バイク	自家用車	公共交通	その他
男性(167)	63%	15%	20%	-	1%
女性(177)	56%	14%	29%	2%	-
18～29(32)	53%	16%	31%	-	-
30代(40)	65%	13%	20%	3%	-
40代(58)	60%	19%	21%	-	-
50代(68)	68%	12%	21%	-	-
60代(52)	54%	13%	31%	-	-
70代(66)	56%	15%	27%	2%	-
80歳以上(34)	56%	15%	24%	3%	3%
全体(350)	59%	15%	25%	1%	0%

次は、「投票する人を決めたのはいつ頃か」を確認してみよう。〔表6〕を参照されたい。全体では、「選挙期間中」が50%で最も多く、「投票日当日」

表6. 投票する人を決めた時期

	選挙期間に入る前から	選挙期間中	投票日当日	覚えてない
男性(167)	22%	46%	29%	2%
女性(177)	25%	51%	20%	3%
18～29(32)	6%	47%	44%	3%
30代(40)	13%	55%	33%	-
40代(58)	17%	41%	41%	-
50代(68)	13%	51%	31%	4%
60代(52)	25%	58%	13%	2%
70代(66)	38%	56%	5%	2%
80歳以上(34)	47%	32%	6%	12%
全体(350)	23%	50%	24%	3%

表 7. 投票する人を決めた基準

	地元の利益を考 えて	自分と同じよう な職業の利益を 考えて	自分と同じよう な世代の利益を 考えて	候補者の政策や 主張を考えて	候補者の人柄を 考えて	長年議員を やっているから	家族や知人に勤 められたから
男性(167)	28%	6%	16%	60%	32%	4%	3%
女性(177)	38%	5%	24%	65%	27%	2%	14%
18~29(32)	25%	6%	53%	66%	16%	-	13%
30代(40)	30%	-	43%	60%	30%	3%	13%
40代(58)	31%	9%	28%	66%	24%	5%	3%
50代(68)	35%	7%	7%	69%	32%	3%	9%
60代(52)	37%	6%	8%	63%	31%	-	8%
70代(66)	35%	2%	14%	64%	36%	2%	6%
80歳以上(34)	38%	6%	6%	44%	29%	12%	15%
全体(350)	33%	5%	20%	63%	29%	3%	9%

の24%、「選挙期間に入る前から」の23%が拮抗している。投票する人を決めた時期に関しては、年齢別の傾向に大きな相違が存在する。「選挙期間に入る前から」と「投票日当日」の年齢別数値に注目していただきたい。「選挙期間に入る前から」の比率は、18~29歳の6%と80歳以上の47%の間には40ポイント以上の大きな開きがあり、30代から50代までは1割台にとどまるのに対して、60代の25%、70代の38%、80歳以上の47%へと顕著に増加している。

他方、「投票日当日」については、18~29歳44%、40代の41%など、50代までは3割以上を占めているのに対して、60代は13%、70代、80歳以上は6%、5%と一気に低下している。候補者との日常的なつながりの有・無を示唆していると推測されよう。いずれにせよ、地域社会との関わりの度合いについては、50代までの若・中年層と60代以上の高年層との間に大きな相違が介在していると思われる。

さらに、投票する人を決めた基準、すなわち「候

補者を選ぶ時、どういう点を考えて決めたか」（複数回答）について、確認してみたい。〔表7〕にまとめている。「候補者の政策や主張を考えて」が63%と最も高く、「地元の利益を考えて」の33%、「候補者の人柄を考えて」の29%が次いでいる。また、「自分と同じような世代の利益を考えて」は、全体では20%に過ぎないものの、18~29歳の53%、30代の43%と若年層で高比率を占めている。前問（投票する人を決めた時期）の回答結果と整合する傾向であろう。

2-3.「投票しなかった」人たち

今度は「投票しなかった」人たちに対する質問の結果を確認して行こう。〔表8〕を参照されたい。「投票しなかった理由」を、複数回答で聞いた結果をまとめている。全体では、「仕事や旅行など、ほかの用事があったから」が34%、「投票したいと思う候補者がいなかったから」が33%で次いでおり、他の回答は1割台にとどまっている。

年齢別の傾向をみると、「投票したいと思う候補

表 8. 投票しなかった理由

	仕事や旅行など、ほかの用事があったから	病気などで体調が良くなかったから	投票に行こうと思ったが、忘れてしまったから	政治（家）に不信感を持っているから	市議会議員があることを知らなかったから	投票するのが面倒だったから	投票所が近くになかったから	政治や選挙に関心がなかったから	投票したいと思う候補者がいなかったから	自分の一票では選挙の結果は変わらないから
男性(106)	40%	10%	8%	13%	1%	14%	5%	11%	35%	17%
女性(148)	30%	18%	9%	14%	2%	15%	4%	18%	32%	22%
18~29(37)	49%	5%	8%	5%	3%	19%	8%	24%	38%	14%
30代(32)	59%	9%	9%	16%	3%	13%	3%	19%	34%	28%
40代(47)	47%	13%	15%	19%	2%	28%	-	13%	19%	19%
50代(61)	31%	2%	8%	10%	2%	13%	3%	15%	44%	23%
60代(34)	26%	21%	6%	18%	-	12%	9%	15%	26%	9%
70代(29)	3%	41%	7%	17%	-	3%	7%	17%	34%	28%
80歳以上(17)	-	41%	6%	12%	-	-	6%	-	35%	12%
全体(257)	34%	15%	9%	14%	2%	14%	5%	16%	33%	19%

表 9. 投票に行くための条件

	投票所が近かったら	投票所まで無料のバスが運行されたら	区内の投票所であればどこでも投票できたら	駅やショッピングセンターなどで投票できたら	期日前投票が早朝や午後8時以降もできたら	投票日の投票時間が延長されたら	インターネットや郵送による投票ができたなら
男性(106)	10%	-	8%	17%	8%	5%	53%
女性(148)	9%	1%	7%	29%	4%	2%	55%
18~29(37)	16%	-	-	27%	5%	5%	65%
30代(32)	6%	-	6%	25%	6%	3%	78%
40代(47)	4%	-	4%	32%	9%	2%	68%
50代(61)	7%	2%	11%	25%	10%	3%	44%
60代(34)	6%	-	6%	21%	-	6%	53%
70代(29)	21%	-	10%	21%	-	-	34%
80歳以上(17)	24%	6%	12%	6%	6%	-	24%
全体(257)	10%	1%	7%	24%	6%	3%	54%

者がいなかったから」が50代の44%を最高に、70代で34%、80歳以上でも35%と相応に高い比率を占めていることがやや気に掛かる。また、全体では15%の「病気などで体調が良くなかったから」に関して、70代と80歳以上の高年層で41%を占めていることにも留意が必要であろう。

次は、「どういう状況ならば投票しようと思うか」(2つまで回答)の結果をみてみよう。[表9]にまとめている。投票に行く条件については、「インターネットや郵送による投票ができたなら」が54%を占めており、とりわけ、18~29歳、20代、30代で高い比率となっている。ネット投票や郵送投票以外では、「駅やショッピングセンターなどで投票できたら」が24%となっている。

2-4. 投票行動の弁別要素

ここからは、「投票したか、しなかったか」を弁別する要素として、外的指標を取り上げ、投票行動とのクロス集計結果を確認して行きたい。

まずは、学歴を取り上げる。[表10]を参照されたい。「投票した」の回答比率が大学院卒で高いものの、当該カテゴリーのサンプル数が少ないこと(N=22)に留意が必要である。それ以外の属性に関しては、有意な相違は見受けられない。

表 10. 投票行動の弁別要素 (学歴)

	投票した	投票しなかった
中学校(29)	45%	55%
高校(165)	56%	43%
高専・短大・専修(144)	57%	43%
大学(245)	58%	42%
大学院(22)	82%	18%
全体(607)	57%	42%

居住年数については、[表11]にまとめた。1年未満とそれ以外との間で、「投票した」比率に大きな相違が存在する。ただし、こちらに関しても、1年未満のサンプル数が10と、他のカテゴリーのサンプル数に比べて極端に少ないことに留意していただきたい。

表 11. 投票行動の弁別要素(居住年数)

	投票した	投票しなかった
1年未満(10)	30%	70%
1~3年未満(25)	60%	40%
3~10年未満(64)	50%	50%
10~20年未満(117)	56%	44%
20年以上(391)	59%	39%
全体(607)	57%	42%

投票所までの時間については、有意な相違が確認できる。[表12]は、「自宅から投票当日の投票所に行くのに何分くらいかかるか」と「投票した・しなかった」とのクロス集計結果に相当する。投票行動に関して、当日投票所まで「10分未満」(=「投票した」が6割以上)と「10分以上」(=「投票した」が4割台)との間に明確な相違が存在している。

表 12. 投票行動の弁別要素(投票所までの時間①)

	投票した	投票しなかった
5分未満(171)	64%	34%
5~10分未満(276)	62%	38%
10~20分未満(115)	46%	54%
20分以上(25)	44%	56%
全体(607)	57%	42%

投票所までの時間は、さらに、「投票した」人たちにとっての「期日前投票か当日投票か」の選択とも関連している。〔表 13〕を参照されたい。10分を境目として、10分未満の人たちは「当日投票」、10分以上の人たちは「期日前投票」という、志向性の違いが存在している。先の〔表 5〕で確認したように、投票所には徒歩で行く人たちが6割と大半を占めることを、想起していただきたい。

表 13. 投票行動の弁別要素(投票所までの時間②)

	当日投票	期日前投票
5分未満(112)	83%	17%
5~10分未満(171)	72%	27%
10~20分未満(52)	34%	64%
20分以上(11)	45%	55%
全体(348)	69%	31%

2-5. 選択の情報源

ここからは、再び、有権者全体を対象とする質問を取り上げて行きたい。選挙に関する情報や啓発に関する回答結果を、いくつかみてみよう。

今回の市議選において、さいたま市選挙管理委員会は、新たな試みとしてTwitterやLINEを利用した選挙告知を実施した。〔表 14〕は、「選挙啓発のTwitter広告とLINE広告で見たものはどれか」を聞いた結果に相当する。Twitter広告が3%、LINE広告が4%であった。2023年4月の統一地方選で

表 14. Twitter やLINE による選挙告知

	Twitter広告を見た	LINE広告を見た	Twitter広告から特設サイトを見た	LINE広告から特設サイトを見た	いずれも見していない
男性(275)	3%	4%	1%	1%	91%
女性(327)	3%	4%	1%	0%	91%
18~29(69)	6%	3%	1%	-	91%
30代(73)	1%	8%	1%	4%	90%
40代(105)	3%	2%	-	-	95%
50代(130)	3%	2%	1%	1%	94%
60代(87)	1%	3%	-	-	92%
70代(96)	5%	4%	2%	1%	85%
80歳以上(51)	4%	10%	-	-	80%
全体(611)	3%	4%	1%	1%	91%

は、さいたま市の選挙管理委員会をはじめとして、全国各地の選挙管理委員会で同様の試みが採用されている。これらの効果をどう評価するかについては、1回目だけでなく、今後の推移を観察していく必要があるだろう。

〔表 15〕を参照されたい。行政による日常の選挙啓発事業についての回答結果、すなわち、「さいたま市・区選挙管理委員会が普段から行っている選挙に関する情報提供のうち、見たり聞いたりしたもの」を選択(複数回答)してもらった結果をまとめたものである。「どれも見たり聞いたりしなかった」が62%を占める中で、「自治会回覧」のみが25%と相応の比率を示しており、とりわけ、60代以上においては3割を越えている。

さらに、主権者教育や投票啓発イベントの認知

表 15. 行政による選挙啓発情報

	選挙啓発動画	さいたま市選挙管理委員会ホームページ	自治会回覧板	区民まつりで選挙啓発	明るい選挙啓発ポスターコンクール	模擬投票	さいたま市Twitter	どれも見たり聞いたりしなかった
男性(275)	3%	5%	24%	1%	5%	0%	3%	66%
女性(327)	3%	5%	26%	2%	9%	0%	4%	58%
18~29(69)	4%	7%	14%	-	6%	-	6%	72%
30代(73)	5%	7%	22%	1%	8%	1%	5%	63%
40代(105)	2%	4%	13%	1%	9%	-	4%	72%
50代(130)	1%	5%	22%	6%	8%	-	4%	68%
60代(87)	2%	2%	36%	-	7%	-	1%	52%
70代(96)	4%	4%	39%	2%	5%	1%	3%	50%
80歳以上(51)	6%	8%	31%	-	8%	-	4%	51%
全体(611)	3%	5%	25%	2%	7%	0%	4%	62%

表 16. 主権者教育や投票啓発イベント

	学校での授業	選挙出前授業・模擬投票	明るい選挙啓発ポスターコンクール	生徒会・学級委員会などの選挙	国会・県議会などの議事堂見学	政治講座、選挙セミナー	その他	特になし
男性(275)	14%	1%	5%	39%	20%	2%	2%	45%
女性(327)	24%	2%	8%	46%	27%	1%	2%	29%
18~29(69)	32%	7%	7%	42%	26%	1%	3%	28%
30代(73)	27%	1%	10%	42%	25%	-	1%	37%
40代(105)	14%	1%	7%	45%	32%	-	1%	32%
50代(130)	12%	1%	9%	42%	23%	-	3%	42%
60代(87)	22%	-	6%	48%	22%	2%	2%	36%
70代(96)	18%	2%	4%	44%	15%	3%	2%	35%
80歳以上(51)	16%	-	4%	31%	22%	6%	2%	47%
全体(611)	19%	2%	7%	43%	24%	1%	2%	37%

度も質問している。〔表 16〕は、「学生時代に経験した選挙に関する授業やイベント（行事）で印象に残っているもの」を複数回答で聞いた結果をまとめている。「生徒会・学級委員会などの選挙」の 43%、「国会・県議会などの議事堂見学」の 24%、「学校での授業」の 19%などの順となっている。

わけても、「学校での授業」について、18～29 歳で 32%、30 代で 27%を占めていること、加えて、全体では 2%に過ぎない「選挙出前授業・模擬投票」が、18～29 歳で 7%を示していることなどからは、主権者教育の展開が相応の効果を上げていることが示唆されよう。今後の経年の推移を注視したい。

2-6. 選挙権年齢と被選挙権年齢

選挙制度に関連する質問としては、参政権の条件である選挙権年齢と被選挙権年齢について聞いた。〔表 17〕は、選挙権年齢（満 18 歳）への評価、すなわち、「18 歳という年齢で選挙権を持つのは早いと思うか、遅いと思うか」の結果をまとめている。「ちょうどいい」とする肯定的な評価が、全体で 51%と過半数を超えるものの、「早い」という意見も 28%と 3 割近くを占めている。「18 歳選挙権」も、2016 年の導入以来、国政選挙はすでに 5 回実施され、統一地方選などを含めるとすでに 10 回を上回る。この結果を、どのように解釈すべきなのか。ひとまずは留保しておきたい。

表 17. 選挙権年齢は

	早い	ちょうどいい	遅い	わからない
男性(275)	27%	55%	1%	13%
女性(327)	30%	48%	3%	19%
18～29(69)	23%	55%	10%	10%
30代(73)	22%	51%	7%	19%
40代(105)	23%	58%	6%	13%
50代(130)	29%	48%	2%	20%
60代(87)	32%	45%	1%	20%
70代(96)	35%	50%	1%	13%
80歳以上(51)	29%	47%	-	22%
全体(611)	28%	51%	4%	17%

次は、被選挙権についてみてみよう。選挙に立候補できる被選挙権は、都道府県知事と参議院議員が 30 歳以上、それ以外は 25 歳以上に据え置かれたままである。「被選挙権についてどうすべきか」を聞いた結果を、〔表 18〕にまとめた。「今のままでいい」が全体で 50%と半数を占めている。他方、「選挙権と同じ 18 歳以上にすべき」は 8%に過ぎない。「選挙権と同じ 18 歳以上にすべき」と「引き下げるべきだが、選挙権と同じ年齢まで

引き下げる必要はない」との合計を「引き下げ派」と捉えると、全体で 34%となる。年齢別では、18 歳～29 歳が 46%と最も高く、30 代、40 代がそれぞれ 39%、40%で次いでいる。被選挙権年齢に関しては、男・女間で受け止め方に顕著な相違が存在し、引き下げ派の割合で見ると、男性の 41%に対して女性は 27%にとどまっている。

表 18. 被選挙権年齢は

	選挙権と同じ18歳以上にすべきだ	引き下げるべきだが選挙権と同じ年齢まで引き下げる必要はない	今のままでいい	わからない
男性(275)	13%	28%	45%	10%
女性(327)	4%	23%	54%	17%
18～29(69)	13%	33%	33%	19%
30代(73)	5%	34%	44%	15%
40代(105)	10%	30%	50%	10%
50代(130)	6%	23%	51%	18%
60代(87)	6%	25%	54%	10%
70代(96)	10%	19%	58%	9%
80歳以上(51)	8%	14%	55%	22%
全体(611)	8%	26%	50%	14%

2-7. 政治や社会の情報源

今度は、政治や社会に関する日常的な情報源についてみて行こう。〔表 19〕を参照されたい。

「社会についての情報を得る際に、最も利用しているもの」の結果をまとめた表である。全体の比率では、テレビの 37%、インターネットの 34%が拮抗しているが、年齢別にみると、顕著な相違が存在している。テレビについては、18～29 歳と 30 代が 1 割台、40 代と 50 代が 3 割台に対して、60 代は 60%と一気に増加し、70 代と 80 歳以上も 5 割前後の高率を示している。一方のインターネットは、18～29 歳から 50 代までは、30 代の 66%を最高に 4 割以上であるのに対して、60 代は 20%に半減し、70 代の 8%、80 歳以上の 2%へと低落している。情報源に関するこれらの結果からは、50 代以下の若中年層と 60 代以上の高年層との間に、断層とも表現しうるようなギャップが介在してい

表 19. 社会の情報を何から得るか

	テレビ	新聞	インターネット	SNS
男性(275)	27%	18%	41%	8%
女性(327)	46%	9%	29%	8%
18～29(69)	17%	1%	43%	33%
30代(73)	16%	-	66%	11%
40代(105)	32%	6%	50%	8%
50代(130)	36%	8%	42%	5%
60代(87)	60%	7%	20%	2%
70代(96)	46%	36%	8%	2%
80歳以上(51)	51%	43%	2%	-
全体(611)	37%	13%	34%	8%

ることがうかがわれる。

これらの結果は、先の〔表6〕で確認した「投票する人を決めた時期」に対する回答傾向と類似しており、情報源を起点とした社会との関わり方の相違が存在することが示唆されよう。なお、全体では8%に過ぎないSNSについて、18～29歳の最若年層のみが33%と顕著に高い比率を示しており、新しい世代が登場していることが見受けられる。

さて、「1億総スマートフォン時代」と言われる現在、さいたま市においても「(スマートフォンを)保有している」とする比率が90%に達するに至った(注1)。情報源については、さらに、ニュースをみるサイトは何かを問うた。〔表20〕を参照されたい。「政治や社会のニュースを見る際、どのサイトをよく利用するか」(2つまで)を聞いた結果をまとめたものである。全体では、Yahooに代表されるニュースアプリを利用する比率が60%で最も高いシェアとなっている。年齢別でも、30代から60代までの実年齢において7割を上回る。離れた2番目はLINEニュースの24%で、18～29歳の36%を筆頭に30、40代で3割近くを占めている。Twitter(現X)については、全体では16%にとどまるものの、18～29歳では58%とトップのシェアを示している。

政治社会を認知するインターフェイスに関しては、18～29歳の若年層、30代～60代までの実年齢層、70代以上の高年齢層という3つの区分が存在するように思われる。社会に触れる窓の相違は、事実や出来事に関する共有認識にどのような影響を及ぼすのだろうか。

3. 経年結果(2015・2019・2023)の推移

3-1. 投票行動の弁別要素

さいたま市議選の追跡調査に関しては、前回の2019年にも、埼玉大学社会調査研究センターとさいたま市選挙管理委員会の共同で実施している。さらに、同様の追跡調査は、2015年の選挙後にも、埼玉大学社会調査研究センターが独自に実施している(注2)。ここでは、その結果も加え、3回の経年の推移を投票行動の弁別要素に焦点を絞ってトレースしてみよう。

・学歴

〔表21〕は、学歴と投票行動(「投票した・しなかった」)とのクロス集計結果をまとめたものである。サンプル数を考慮すると、「大学院」は比較の基準から除外する必要があるだろう。それ以外の4カテゴリー間には、断面、経年ともに明確な相違は読み取れない。

表20. ニュースをみるサイト

	Twitter	LINE ニュース	YouTube内の ニュース 動画	ニュースアプリ (Yahoo!ニュース、スマ ートニュース、ゲッシー など)	新聞社の動画 ニュースサイト (各社のサイトや NewsVideoな)	テレビ局の 動画ニュース サイト	その他
男性(275)	13%	12%	14%	65%	15%	13%	9%
女性(327)	17%	32%	5%	56%	6%	14%	11%
18～29歳(69)	58%	36%	14%	43%	6%	3%	4%
30代(73)	33%	26%	8%	75%	5%	10%	4%
40代(105)	9%	28%	8%	73%	11%	8%	9%
50代(130)	12%	22%	8%	75%	15%	10%	4%
60代(87)	2%	16%	10%	70%	14%	13%	8%
70代(96)	3%	18%	10%	38%	8%	26%	23%
80歳以上(51)	2%	14%	4%	18%	2%	37%	29%
全体(611)	16%	23%	9%	60%	10%	14%	10%

表21. 経年結果の推移①

	投票した			投票しなかった		
	2015	2019	2023	2015	2019	2023
中学校	67% (28)	57% (16)	45% (13)	26% (11)	43% (12)	55% (16)
高校	56% (112)	59% (105)	56% (94)	34% (68)	41% (74)	43% (71)
高専・短大・専修	42% (63)	47% (75)	57% (82)	48% (72)	52% (82)	43% (62)
大学	54% (100)	53% (113)	58% (142)	38% (70)	47% (101)	42% (103)
大学院	71% (15)	29% (5)	82% (18)	19% (4)	65% (11)	18% (4)
全体	53% (323)	53% (317)	57% (350)	38% (233)	47% (283)	42% (257)

・居住年数

次は、居住年数と投票行動との関係を確認しよう。なお、2015年調査では居住年数の質問を採用していない。〔表22〕を参照されたい。サンプル数の関係から、「1年未満」と「1～3年未満」を、「3年未満として」1つのカテゴリーにまとめる必要がある。2019年の結果では、「20年未満」と「20年以上」との間に明確な相違が見受けられ、20ポイント程度の開きが存在していた。ところが、2023年になると、程度の差がやや相対化され、顕著な相違は確認できない。

・投票所までの時間

当日投票所までの時間と投票行動との間には、相関関係の存在が推測される。〔表23〕にまとめた。先の2023年結果と同様、2015年、2019年共に、共通の傾向を確認することができる。すなわち、「投票に行くか、行かないか」に関しては、「10分未満」と「10分以上」との間に境界が存在するように思われる。

最後に、投票所までの時間と「当日投票か、期日前投票か」とのクロス結果をみてみよう。〔表

24〕を参照されたい。「10分未満」の人たちは「当日投票」、かたや、「10分以上」の人たちは「期日前」を、それぞれ志向する傾向が徐々に定着し、とりわけ2023年にはより明確になったことが読み取れる。

投票所までの距離という、物理的環境条件が、投票への動機付けに大きく関わる要因であることが確認できたと言えよう。

表 22. 経年結果の推移②

	投票した		投票しなかった	
	2019	2023	2019	2023
1年未満	40% (2)	30% (3)	60% (3)	70% (7)
1～3年未満	42% (14)	60% (15)	58% (19)	40% (10)
3～10年未満	35% (28)	50% (32)	64% (52)	50% (32)
10～20年未満	42% (45)	56% (65)	58% (63)	44% (52)
20年以上	61% (228)	59% (235)	39% (145)	39% (156)
全体	53% (317)	57% (350)	47% (283)	42% (257)

表 23. 経年結果の推移③

	投票した			投票しなかった		
	2015	2019	2023	2015	2019	2023
5分未満	58% (121)	60% (98)	64% (112)	34% (70)	39% (63)	34% (59)
5～10分未満	55% (164)	54% (142)	62% (172)	35% (105)	45% (119)	38% (104)
10～20分未満	42% (29)	48% (62)	46% (53)	52% (36)	52% (67)	54% (62)
20分以上	25% (4)	68% (13)	44% (11)	69% (11)	32% (6)	56% (14)
全体	53% (323)	53% (317)	57% (350)	38% (233)	47% (283)	42% (257)

表 24. 経年結果の推移④

	当日投票			期日前投票		
	2015	2019	2023	2015	2019	2023
5分未満	83% (101)	83% (81)	83% (93)	16% (19)	17% (17)	17% (19)
5～10分未満	74% (122)	78% (111)	72% (124)	26% (42)	22% (31)	27% (47)
10～20分未満	59% (17)	52% (32)	34% (18)	38% (11)	48% (30)	64% (34)
20分以上	50% (2)	62% (8)	45% (5)	50% (2)	31% (4)	55% (6)
全体	76% (246)	74% (233)	69% (241)	23% (75)	26% (83)	31% (107)

(注1) 埼玉大学社会調査研究センターでは、さいたま市民を対象とする意識調査を、2013年以降、毎年実施してきている。スマートフォンの保有率に関する質問の回答は、当初の39%から顕著な増加を続け、2023年には90%に到達した。下掲の〔表25〕を参照されたい。

表 25. スマートフォン保有率

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
全体	39	45	54	61	65	72	78	82	85	88	90

(%)

(注2) 2015年調査、2019年調査は、ともに今回の2023年調査と同様、調査の対象者は市内10区の選挙人名簿から各区の有権者数に比例する形で抽出した1,000人、調査方法は郵送法により実施した。2015年調査は同年5月に実施し、有効回答数610(同回収率61%)、2019年調査は同年6月に実施し、有効回答数は602(同回収率60%)であった。

「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」2023年5月

さいたま市選挙管理委員会では、埼玉大学社会調査研究センターと共同で、いまの政治への関心や選挙への対応などを有権者のみなさまにお聞きし、投票環境整備や効果的な啓発手法を考えるために活用させていただきたいと考えております。

さいたま市内10区の選挙人名簿から、無作為に1,000人の方を抽出したところ、あなた様にご協力をいただくことになりました。ぜひ、ご意見をお聞かせください。回答いただいた内容は、統計的に処理して「非常にある△△%」といった形で分析しますので、お名前や具体的に記入いただいた回答が個人を特定できる状態で外部に公表されることはございません。また、ご記入の調査票は細断し、情報管理を徹底してまいります。

この調査には、ご本人様にご回答ください。右上にある「整理番号」は、調査票が返送されたかどうかの確認を行うためのものです。お名前を書いていただく必要はありません。

申し訳ありませんが、6月9日(金)までに、同封の封筒にてご返送くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ>埼玉大学社会調査研究センター(担当・菱山=ひしやま)
9時~16時(月曜日から金曜日、祝日を除く)

Tel: 048-858-3120

e-mail: ssrc@gr.saitama-u.ac.jp

この下の Q1 からお答えください

Q1. あなたが学生時代に経験した選挙に関する授業やイベント(行事)で印象に残っているものはありますか。あてはまるものすべて選んで○をつけてください。

1. 学校での授業 19%
2. 選挙出前授業・模擬投票 2%
3. 明るい選挙啓発ポスターコンクール 7%
4. 生徒会・学級委員長などの選挙 43%
5. 国会・県議会などの議事堂見学 24%
6. 政治講座、選挙セミナー 1%
7. その他(具体的に) 2%
8. 特にない 37%

Q2. あなたは、国や地方の政治について、どの程度関心がありますか。

1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 非常にある 14%
2. ある程度ある 56%
3. あまりない 25%
4. 全くない 4%

Q3. あなたは、誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか。

1つ選んで番号に○をつけてください。

1. よくある 9%
2. ときどきある 37%
3. あまりない 31%
4. ほとんどない 21%

Q4. あなたは、4月9日のさいたま市議選について、どの程度関心がありましたか。

1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 非常にあった 13%
2. ある程度あった 35%
3. あまりなかった 38%
4. 全くなかった 14%

Q5. あなたは、4月9日のさいたま市議選で投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 投票した 57% ⇒ Q 6 (2ページ) へ
2. 投票しなかった 42% ⇒ Q 15 (2ページ) へ
3. 選挙権がなかった 1% ⇒ Q 17 (3ページ) へ

「1. 投票した」と回答した人への質問

Q6. 投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票（または不在者投票）をしましたか。

1. 当日投票をした 69%
2. 期日前投票（または不在者投票）をした 31%

Q7. 投票所の混雑を避けるためにホームページ等で過去の投票所の混雑状況を周知しましたが、投票の際に混雑状況を参考にしましたか。

1. 参考にした 4%
2. 参考にしなかった 31%
3. 混雑状況を見たことがない 62%

Q8. あなたは、どなたと投票に行きましたか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1人で 42%
2. 家族と 57%
3. 知人等と 1%
4. その他（具体的に ） -

Q9. あなたが、さいたま市議選で投票所に行った際に、どのような交通手段を利用しましたか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 徒歩 59%
2. 自転車、バイク 15%
3. 自家用車 25%
4. 公共交通（JR・私鉄・バスなど） 1%
5. その他（具体的に ） 0%

Q10. 投票所では待たずに投票できましたか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. すぐに投票できた 91%
2. 少し並んで待った 8%
3. かなり並んで待った 1%
4. 覚えていない -

Q11. 投票した時間帯はいつですか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 午前中 51%
2. 午後（18時まで） 35%
3. 夕方（18時過ぎ～20時まで） 12%
4. 覚えていない 2%

Q12. さいたま市議選で投票する人を決めたのはいつ頃でしたか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 選挙期間に入る前から（3月30日（木）以前） 23%
2. 選挙期間中（3月31日（金）から4月8日（土）） 50%
3. 投票日当日（4月9日（日）） 24%
4. 覚えていない 3%

Q13. 今回のさいたま市議選について、あなたは、各候補者の政策の比較をしましたか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 政策の比較をした 56%
2. 政策の比較をしなかった 35%
3. わからない 7%

Q14. あなたは、さいたま市議選で候補者を選ぶ時、どういう点を考えて投票する人を決めましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 地元の利益を考慮して 33%
2. 自分と同じような職業の利益を考慮して 5%
3. 自分と同じような世代の利益を考慮して 20%
4. 候補者の政策や主張を考慮して 63%
5. 候補者の人柄を考慮して 29%
6. 長年議員をやっているから 3%
7. 家族や知人に勧められたから 9%
8. その他（具体的に ） 11%

次のページの Q17 に進んでください

「2. 投票しなかった」と回答した人への質問

Q15. 投票しなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 仕事や旅行など、他の用事があったから 34%
2. 病気などで体調が良くなかったから 15%
3. 投票に行こうと思ったが、忘れてしまったか 9%
4. 政治（家）に不信感を持っているから 14%
5. 市議選挙があることを知らなかったから 2%
6. 投票するのが面倒だったから 14%
7. 投票所が近くになかったから 5%
8. 政治や選挙に関心がなかったから 16%
9. 投票したいと思う候補者がいなかったから 33%
10. 自分の一票では選挙の結果は変わらないから 19%
11. その他（具体的に ） 9%

Q16. あなたは、どういう状況ならば投票しようと思いますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 投票所が近かったら 10%
2. 投票所まで無料バスなどが運行されたら 1%
3. 区内の投票所であればどこでも投票できたら 7%
4. 駅やショッピングセンターなどで投票できたら 24%
5. 期日前投票が早朝や午後8時以降もできたら 6%
6. 投票日の投票時間が延長されたら 3%
7. インターネットや郵送による投票ができたら 54%
8. その他（具体的に ） 14%
9. わからない 13%

ここからは全員への質問です。

Q17. 今回のさいたま市議選で、さいたま市選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が行った投票参加の呼びかけで、あなたが見たり聞いたりしたものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

1. 横断幕・懸垂幕・のぼり旗 19%
2. 市役所・区役所等の電光掲示板 5%
3. 啓発ポスター（自治会掲示板等） 39%
4. 啓発チラシ（自治会回覧板） 17%
5. 選挙のごあんない（公共施設等に配置） 17%
6. 投票所整理券に同封されている啓発チラシ 18%
7. 市報さいたま 32%
8. 市の広報車（候補者の選挙運動自動車は含まない） 11%
9. デパート・百貨店・市役所・区役所でのアナウンス 3%
10. さいたま市の選挙速報サイト（特設ホームページ） 3%
11. その他（具体的に ） 3%
12. どれも見たり聞いたりしなかった 21%

Q18. さいたま市選挙管理委員会では、今回のさいたま市議選で、選挙啓発の Twitter 広告と LINE 広告を新たに行いました。下の中であなたが見たものに、すべて選んで番号に○をつけてください。

1. Twitter 広告を見た 3%
2. LINE 広告を見た 4%
3. Twitter 広告から特設サイトを見た 1%
4. LINE 広告から特設サイトを見た 1%
5. いずれも見えていない 91%

Q19. さいたま市・区選挙管理委員会では、普段から選挙に関する情報提供を行っておりますが、下の中であなたが見たり聞いたりしたものがあれば、すべて選んで番号に○をつけてください。

1. 選挙啓発動画 3%
2. さいたま市選挙管理委員会ホームページ 5%
3. 自治会回覧板（選挙啓発のチラシ） 25%
4. 区民まつりでの選挙啓発 2%
5. 明るい選挙啓発ポスターコンクール 7%
6. 模擬投票（出前講座） 0%
7. さいたま市 Twitter 4%
8. どれも見たり聞いたりしなかった 62%

Q20. 「選挙権」が認められるのは満 18 歳からです。18 歳という年齢で選挙権を持つのは早いと思いますか。それとも遅いと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 早い 28%
2. ちょうどいい 51%
3. 遅い 4%
4. わからない 17%

Q21. 一方、選挙に立候補できる「被選挙権」は、都道府県知事と参議院議員では 30 歳以上、それ以外では 25 歳以上となっています。あなたは、被選挙権についてどうするべきだと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 選挙権と同じ 18 歳以上にすべきだ 8%
2. 引き下げるべきだが、選挙権と同じ年齢まで引き下げる必要はない 26%
3. 今のままでよい 50%
4. わからない 14%

Q22. 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 国会議員 26%
2. 官僚 39%
3. 首相 9%
4. 国民一人一人 4%
5. 大企業 5%
6. マスコミ 6%
7. その他（ ） 4%

Q23. あなたが社会についての情報を得る際に、最も利用しているものは何ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. テレビ 37%
2. 新聞 13%
3. インターネット（ニュースサイト、ニュースアプリ、Webメディア等） 34%
4. SNS（YouTube 等動画共有サイト含む） 8%
5. その他（具体的に ） 0%

◆最後に、今回の調査結果を統計的に処理するために、いくつかおうかがいします。

F 1. あなたは男性ですか、女性ですか。

1. 男性 45% 2. 女性 54% 3. 答えない 1%

F 2. あなたの年齢について、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 10代 2% 2. 20代 10% 3. 30代 12% 4. 40代 17%
5. 50代 21% 6. 60代 14% 7. 70代 16% 8. 80歳以上 8%

F 3. あなたが最後に在籍した（または現在在籍している）学校を1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 中学校（旧制高等小含む） 5%
2. 高校（旧制中学含む） 27%
3. 高専・短大・専修学校 24%
4. 大学（旧制高専含む） 40%
5. 大学院（修士・博士） 4%
6. わからない 0%

F 4. あなたは、さいたま市に住んでどのくらいになりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1年未満 2%
2. 1～3年未満 4%
3. 3～10年未満 10%
4. 10～20年未満 19%
5. 20年以上 65%

F 5. あなたのご自宅から投票当日の投票所へ行くのには、何分くらいかかりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 5分未満 28% 2. 5～10分未満 45% 3. 10～20分未満 19%
4. 20分以上 4% 5. わからない 3%

F 6. あなたは、政治や社会のニュースを自分の携帯やタブレットで見る際、どのサイトをよく利用しますか。あてはまるものを2つまで選んで、番号に○をつけてください。

1. Twitter 15%
2. LINE ニュース 23%
3. YouTube 内のニュース動画 9%
4. ニュースアプリ 60%
(Yahoo!ニュース、スマートニュース、グッシャーなど)
5. 新聞社の動画ニュースサイト 10%
(各社のサイトやNewsVideo など)
6. テレビ局の動画ニュースサイト 14%
7. 動画サービス (Hulu、Gyao! など) 0%
8. その他 () 10%

F 7. あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか。(携帯電話のみの方は「2. ない」に○を)

1. ある 71% 2. ない 28%

F 8. あなたは現在、スマートフォンを持っていますか。

1. はい 90% 2. いいえ 9%

F 9. 最後に、あなたは、ご自宅で電話を使う場合次のどれに当てはまりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 固定電話だけ使う 5%
2. 携帯電話だけ使う 45%
3. 両方使うが主に固定電話 9%
4. 両方使うが主に携帯電話 32%
5. 両方とも同じ程度使う 6%
6. 両方とも使わない 1%

ご協力ありがとうございます。

この回答用紙は、返信用封筒（切手が貼られているもの）に入れ、6月9日(金)までに、ご返送ください。早めにご投函いただければ幸いです。

この調査について、ご意見やご要望があれば、下の余白にご記入ください。